

野菜の生産・消費動向レポート

平成31年2月

農林水産省生産局園芸作物課

1 野菜生産の現状

➤ 野菜の産出額、生産量、作付面積は指定野菜等の主要品目が過半を占める。

◇産出額(平成28年産)



総産出額
2兆6,925
億円

資料:農林水産省『平成28年生産農業所得統計』

※ばれいしょを含めたため、統計上の野菜の公表額とは異なる。

◇国内生産量(平成28年産)



総生産量
13,836
千トン

資料:農林水産省『平成28年度食糧需給表』

◇作付面積(平成29年産)



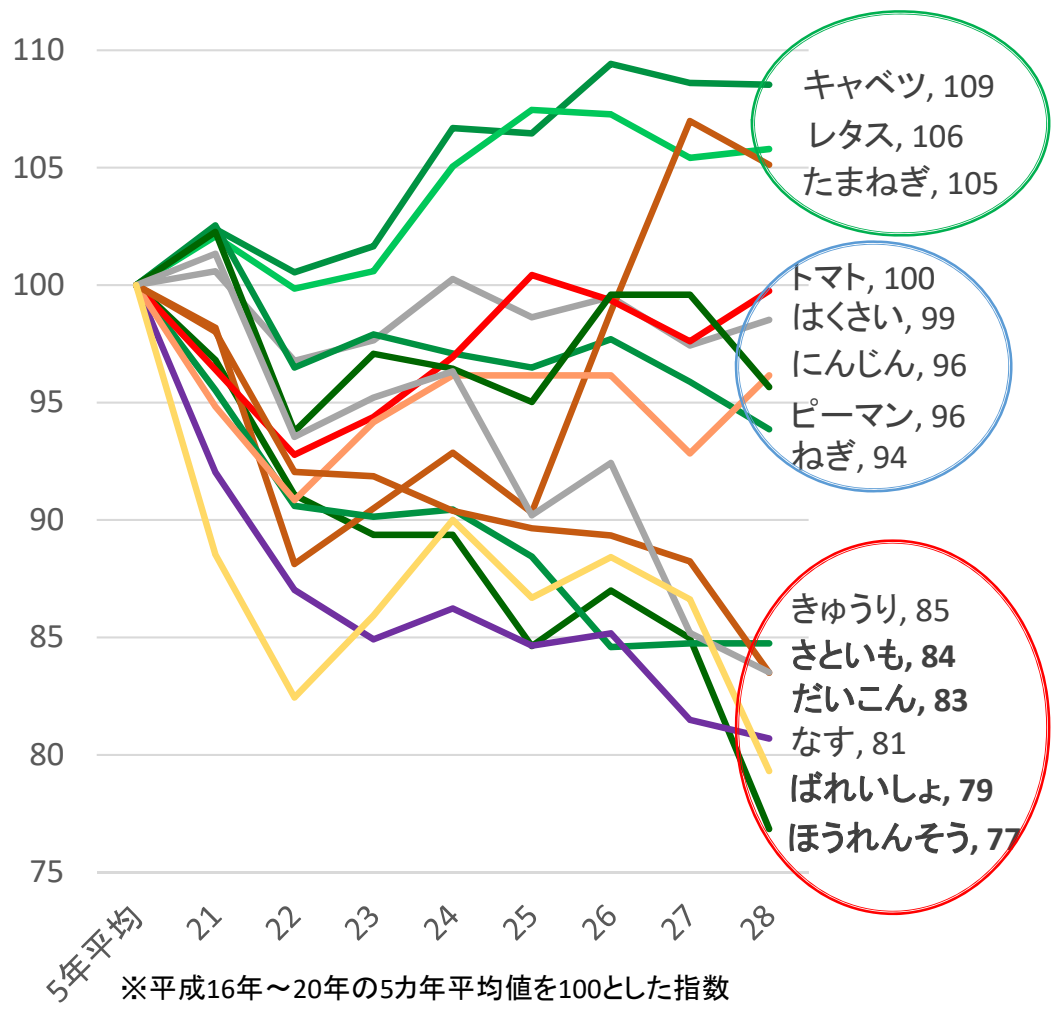
総作付面積
468,700
ha

資料:農林水産省『平成29年産野菜生産出荷統計』

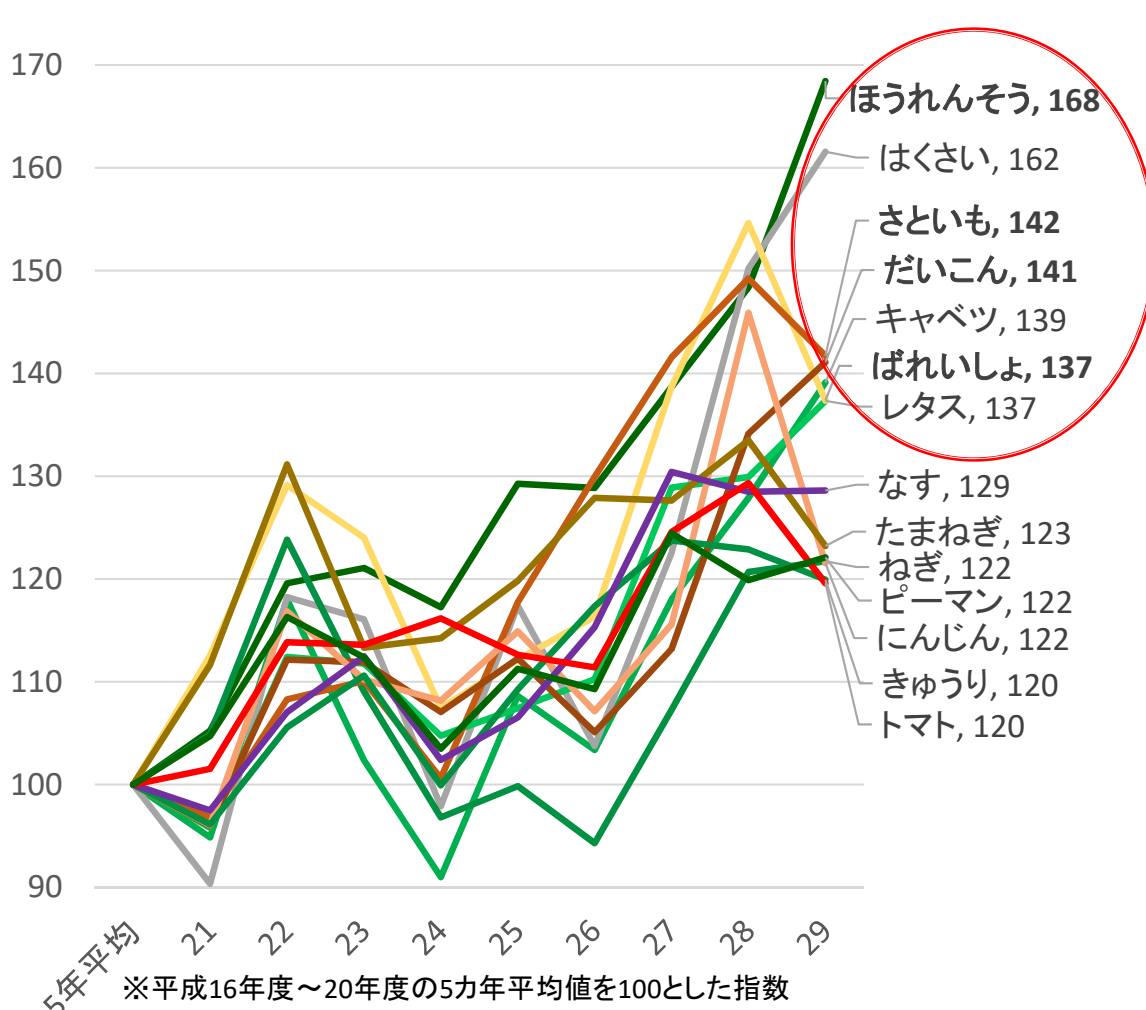
2 主要野菜の生産量と物価の推移

➤ 生産量は、キャベツ、レタス、たまねぎを除き、概ね横ばいから減少。
 ➤ 野菜の物価変動は激しいが、特に生産量が減少している一部品目に高い上昇。

◇国内生産量の推移



◇CPI(消費者物価指数)の推移



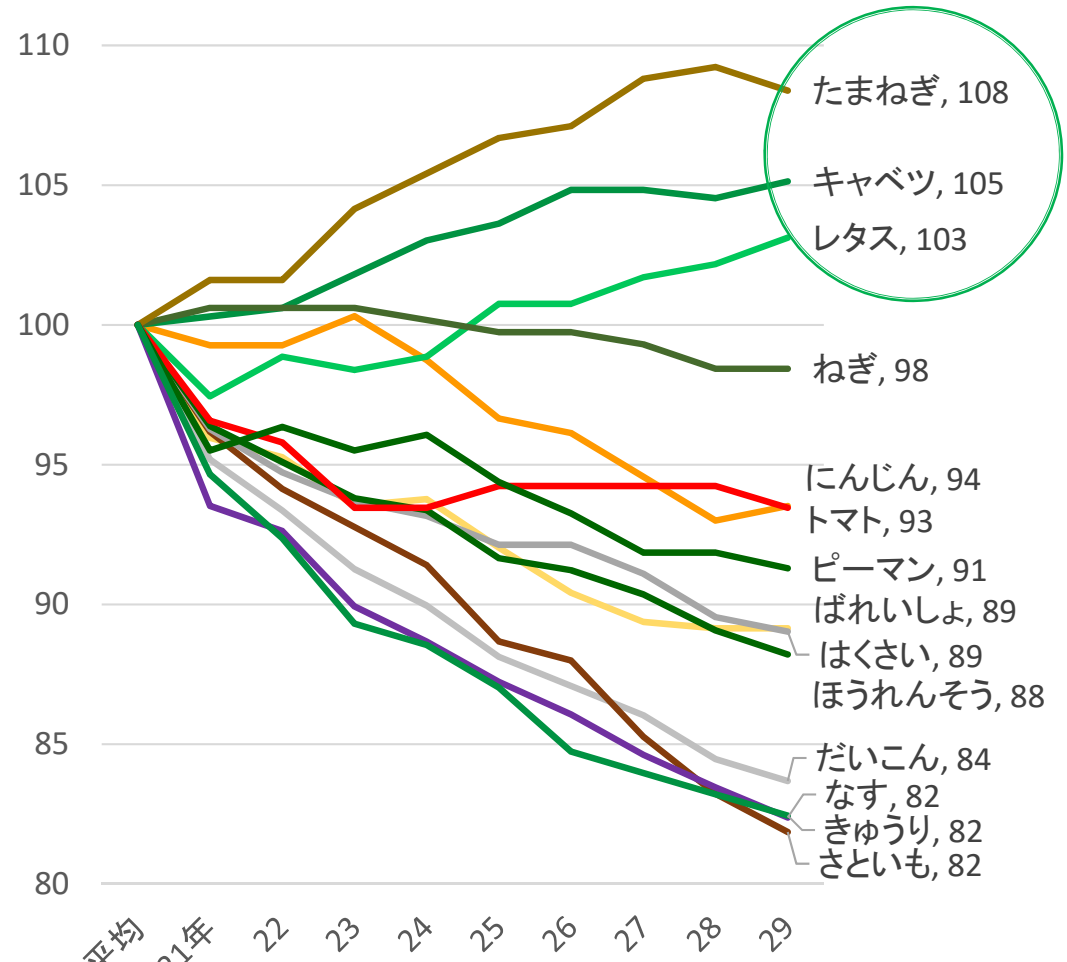
資料: 農林水産省『食糧需給表』より作成

資料: 総務省『消費者物価指数』より作成

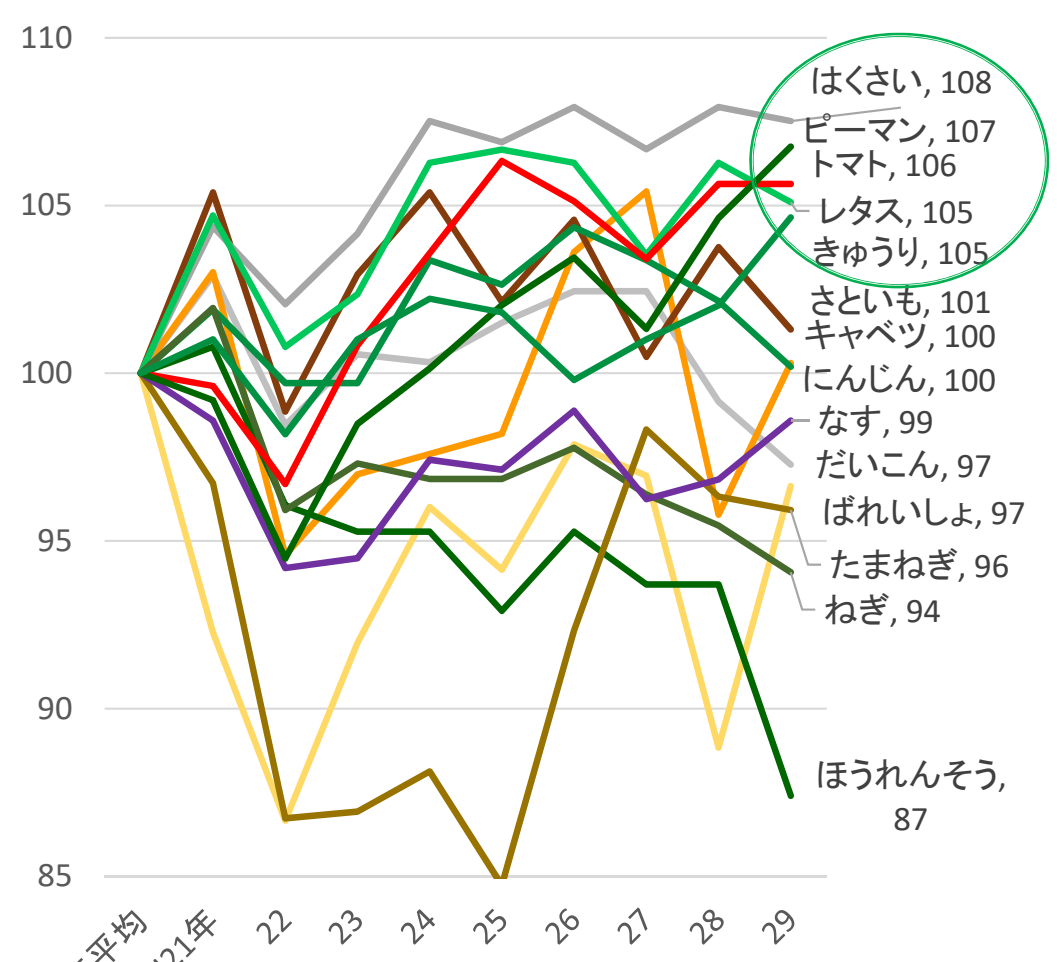
3 主要野菜の作付面積と反収の推移

➤ 作付面積は、生産量の増加した3品目を除き減少傾向。
 ➤ 反収は、各年の作柄にも大きく左右されるが、概ね上昇か横ばい。

◇作付面積の推移



◇反収の推移

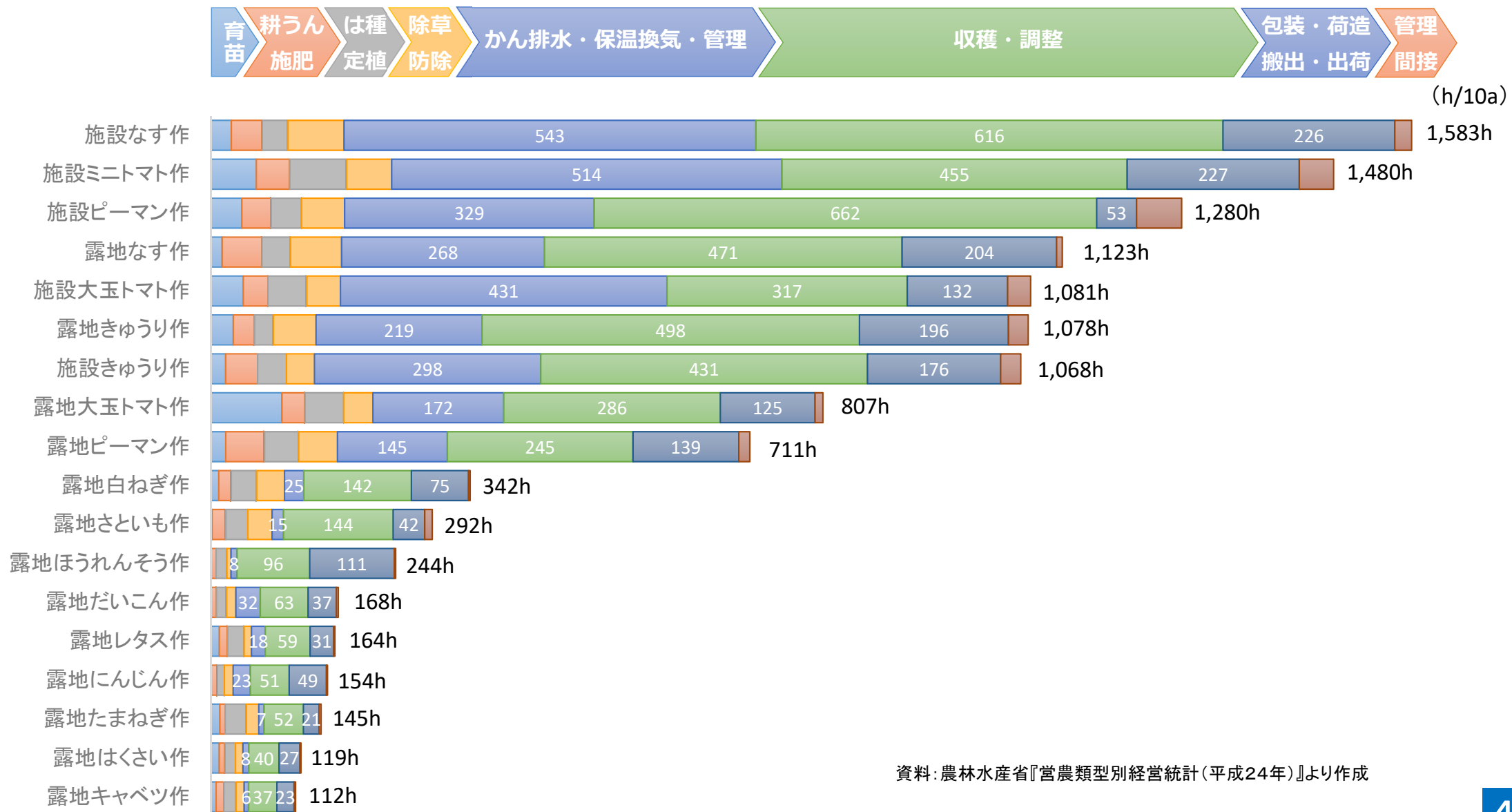


※平成16年～20年の5カ年平均値を100とした指数
 資料：農林水産省『野菜生産出荷統計』より作成

※平成16年～20年の5カ年平均値を100とした指数
 資料：農林水産省『野菜生産出荷統計』より作成

4 主要野菜の作業別労働時間

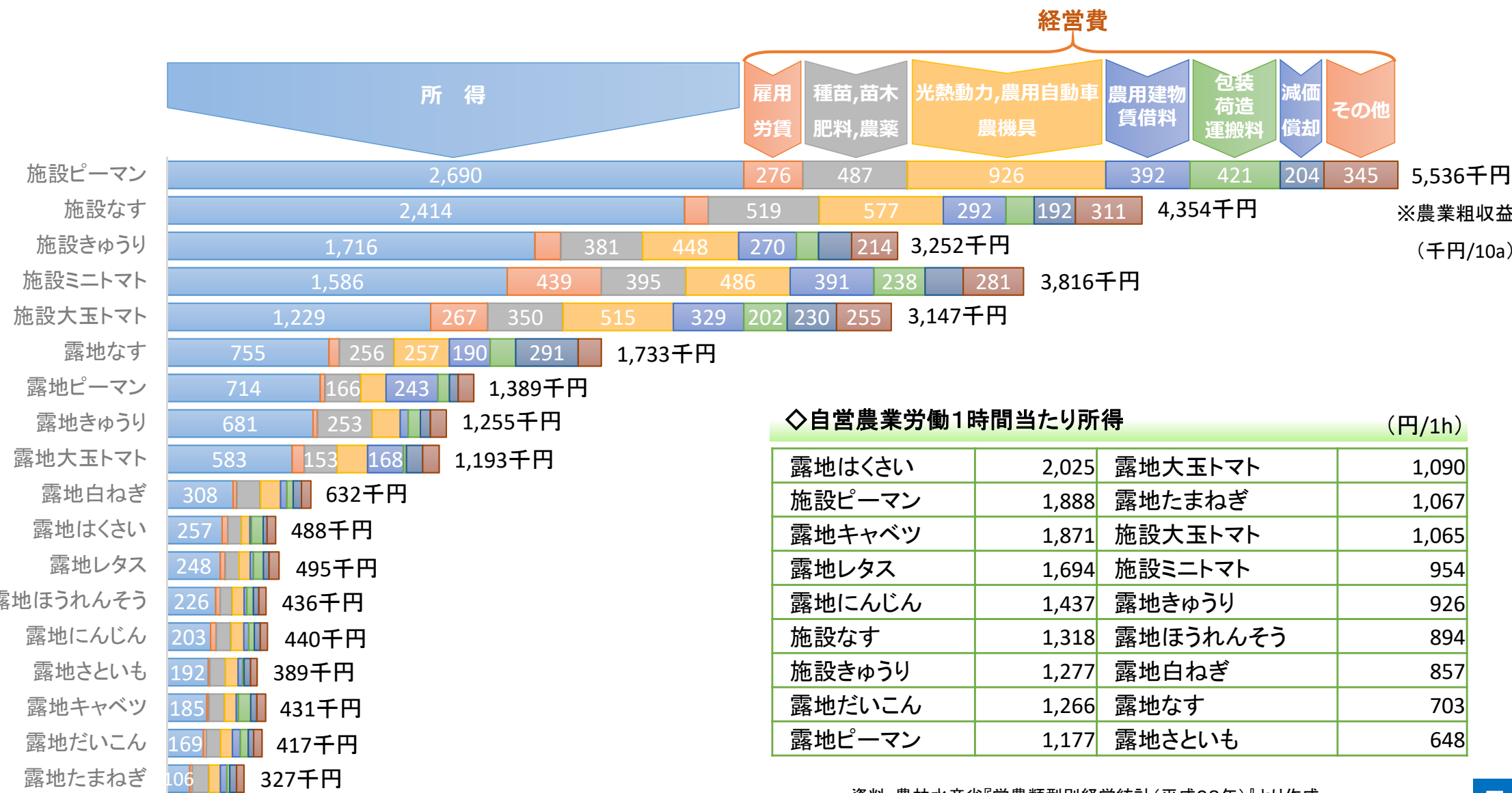
- 労働時間は、収穫・調整作業時間が特に長く、包装等の出荷作業時間も長い。
- 施設栽培では、かん水や施設管理に要する時間が長い。



資料：農林水産省『営農類型別経営統計(平成24年)』より作成

5 主要野菜の所得と経費内訳

- 10aあたり所得は、労働集約型の施設野菜で高いが、経費も高い。
- 必要労働時間の違いにより、時給換算では露地野菜も高い品目がある。



資料: 農林水産省『営農類型別経営統計(平成28年)』より作成

6 主要野菜の用途別仕向量の推移

- 国内の野菜仕向量は全体として減少しているが、国産の加工原料用が大きく増加。
- 国産野菜は、家計消費用では「たまねぎ」、加工原料用では「たまねぎ、きゃべつ、レタス、にんじん、ねぎ、はくさい」、業務用では「たまねぎ、ほうれんそう」で増加。

(千トン)

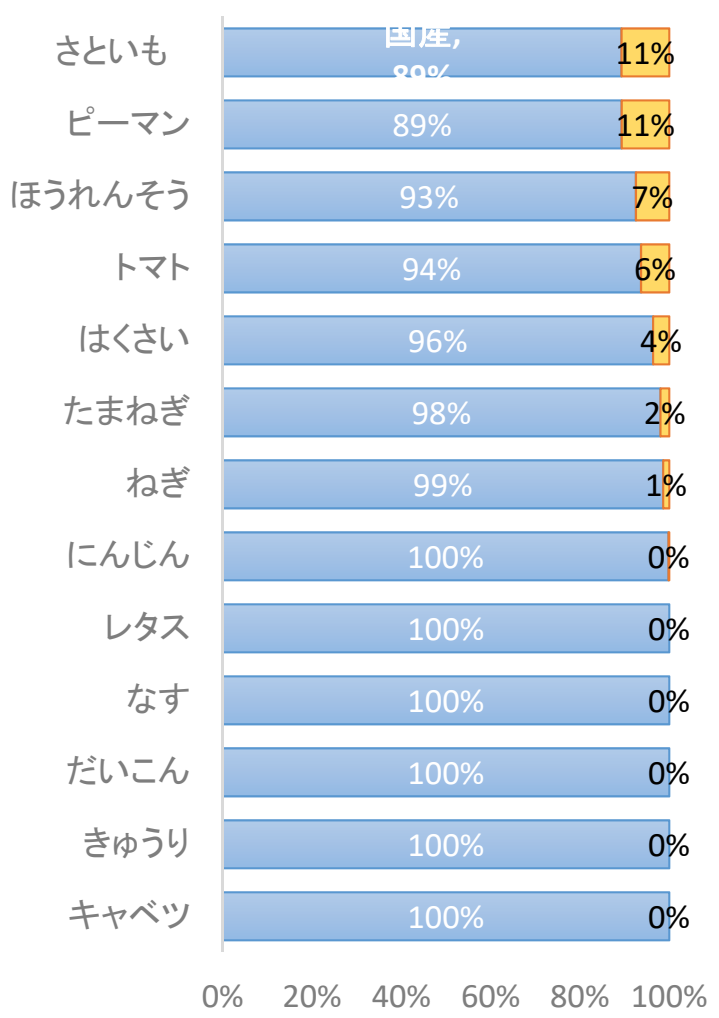
		家計消費用			加工原料用			業務用			合計(粗食料)					家計消費用			加工原料用			業務用			合計(粗食料)		
		H17	H27	増減	H17	H27	増減	H17	H27	増減	H17	H27	増減			H17	H27	増減	H17	H27	増減	H17	H27	増減	H17	H27	増減
たまねぎ	国産	561	611	▲50	151	219	▲68	274	301	▲27	986	1,130	▲145	ピーマン	国産	91	87	▲4	33	33	0	25	13	▲12	148	133	▲15
	輸入	17	12	▲5	257	317	▲60	146	44	▲102	420	373	▲47		輸入	6	10	▲5	10	17	▲8	19	15	▲4	34	43	▲9
	計	578	623	▲45	408	535	▲128	420	345	▲75	1,406	1,503	▲97		計	97	98	▲1	42	50	▲8	44	28	▲16	183	176	▲7
きゃべつ	国産	612	599	▲13	284	409	▲124	234	211	▲23	1,130	1,219	▲89	ほうれんそう	国産	163	118	▲44	44	42	▲2	68	71	▲3	274	231	▲43
	輸入	0	0	0	18	19	▲1	18	4	▲14	35	23	▲13		輸入	5	10	▲5	5	10	▲5	13	28	▲15	23	48	▲25
	計	612	599	▲13	302	428	▲125	251	214	▲37	1,165	1,241	▲76		計	167	128	▲39	49	52	▲3	81	99	▲18	297	279	▲18
レタス	国産	201	199	▲2	158	201	▲42	99	72	▲27	458	471	▲13	さといも	国産	97	70	▲27	30	30	▲0	44	43	▲2	172	143	▲29
	輸入	0	0	0	4	6	▲2	0	4	▲4	4	10	▲6		輸入	16	8	▲8	25	11	▲14	51	26	▲24	92	46	▲46
	計	201	199	▲2	162	207	▲44	99	75	▲24	462	481	▲19		計	113	79	▲35	55	40	▲14	95	69	▲26	263	188	▲75
にんじん	国産	317	309	▲8	148	201	▲53	107	84	▲23	572	595	▲22	なす	国産	220	166	▲54	25	17	▲8	135	114	▲21	380	297	▲83
	輸入	3	1	▲2	259	244	▲16	51	15	▲37	313	259	▲54		輸入	0	0	0	14	4	▲9	0	0	0	14	4	▲9
	計	320	310	▲10	407	445	▲38	159	99	▲60	886	854	▲32		計	220	166	▲54	38	21	▲17	135	114	▲21	393	301	▲92
トマト	国産	478	475	▲3	58	48	▲9	116	102	▲14	651	625	▲26	きゅうり	国産	373	294	▲79	87	77	▲10	168	140	▲27	627	511	▲116
	輸入	19	32	▲13	464	496	▲33	168	174	▲6	651	702	▲51		輸入	0	0	0	43	24	▲18	4	4	▲0	47	29	▲18
	計	497	507	▲10	521	545	▲24	284	276	▲8	1,302	1,327	▲25		計	373	294	▲79	129	102	▲28	172	145	▲27	674	540	▲134
ねぎ	国産	205	177	▲28	83	110	▲27	151	136	▲15	439	422	▲17	だいこん	国産	669	548	▲121	452	444	▲8	408	356	▲52	1,529	1,348	▲181
	輸入	4	2	▲1	51	39	▲13	41	41	▲0	97	82	▲15		輸入	0	0	0	73	43	▲31	8	6	▲2	81	48	▲33
	計	209	179	▲30	134	148	▲14	192	177	▲16	535	504	▲31		計	669	548	▲121	525	486	▲39	416	362	▲54	1,611	1,396	▲214
はくさい	国産	379	360	▲19	302	320	▲18	105	81	▲24	785	760	▲25	指定野菜計	国産	4,365	4,012	▲353	1,853	2,149	▲296	1,933	1,722	▲211	8,151	7,884	▲267
	輸入	23	14	▲10	7	1	▲6	16	9	▲7	46	23	▲23		輸入	93	89	▲4	1,229	1,231	▲2	535	370	▲166	1,858	1,690	▲168
	計	402	373	▲29	309	321	▲12	120	90	▲31	832	784	▲48		計	4,458	4,102	▲356	3,082	3,380	▲298	2,469	2,092	▲377	10,009	9,574	▲435

資料：農林水産政策研究所。指定野菜(ばれいしよを除く13品目)を用いて試算。

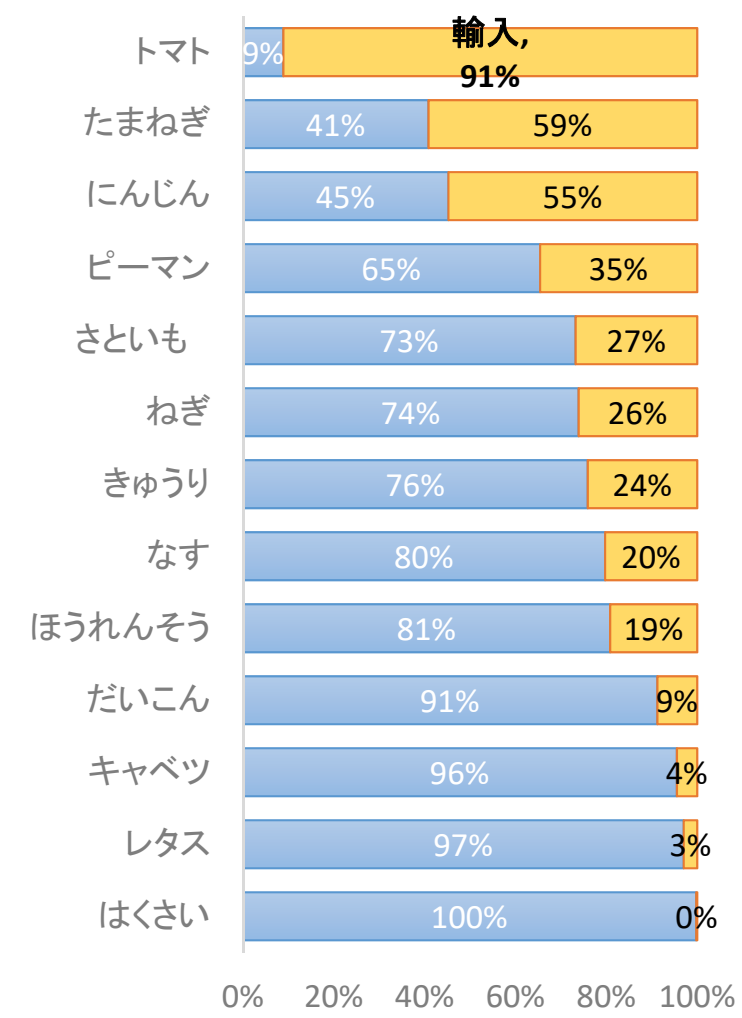
7 主要野菜の用途別自給率(重量ベース)

- 家計消費用の自給率は高いが、さといも、ピーマン、ほうれんそう等で一部輸入。
- 加工原料用は輸入が多いが、特にトマト、たまねぎ、にんじん、ピーマン等が多い。
- 業務用も輸入が多いが、特にトマト、ピーマン、さといも、ほうれんそう等が多い。

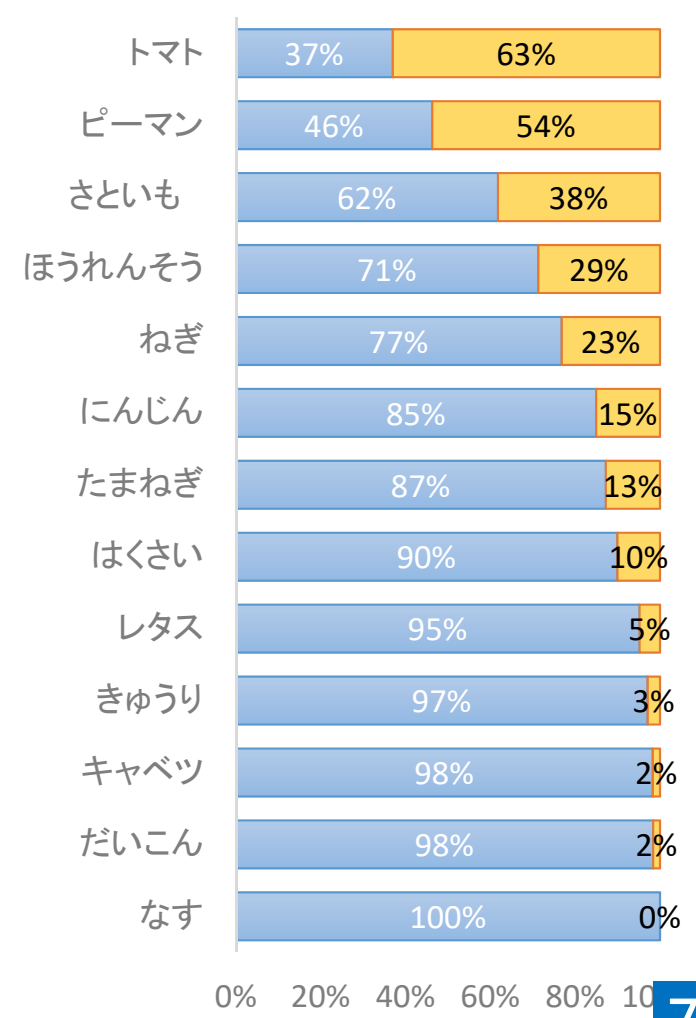
◇家計消費用自給率



◇加工原料用自給率



◇業務用自給率

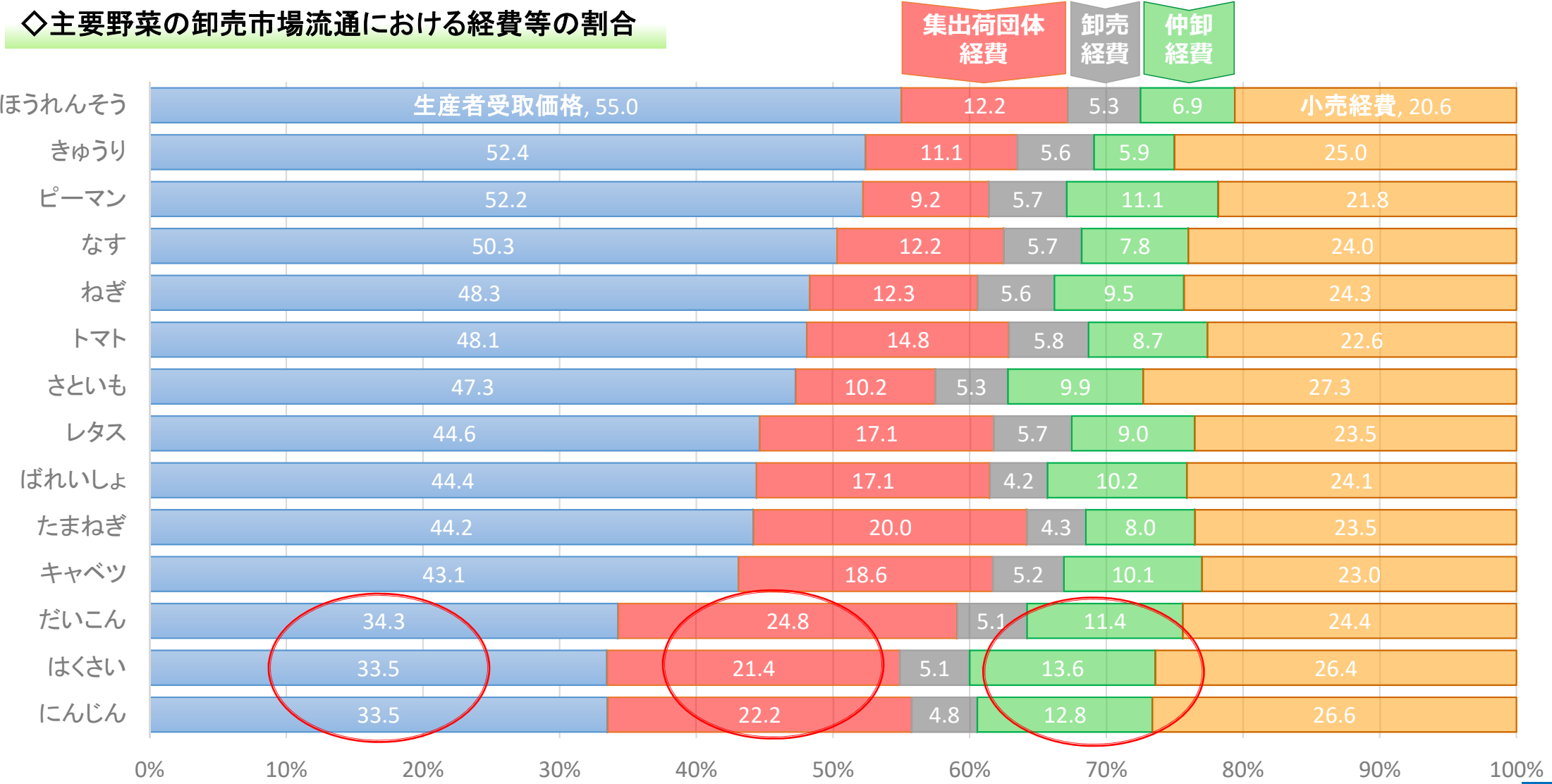


資料: 農林水産政策研究所の試算より作成。平成27年結果。

8 主要野菜の生産者手取りと経費の割合

➤ 卸売市場を経由した野菜の小売価格に占める生産者の手取り率は、重量野菜で低い傾向があり、集出荷団体経費や仲卸経費が大きいことによるところが大きい。

◇主要野菜の卸売市場流通における経費等の割合

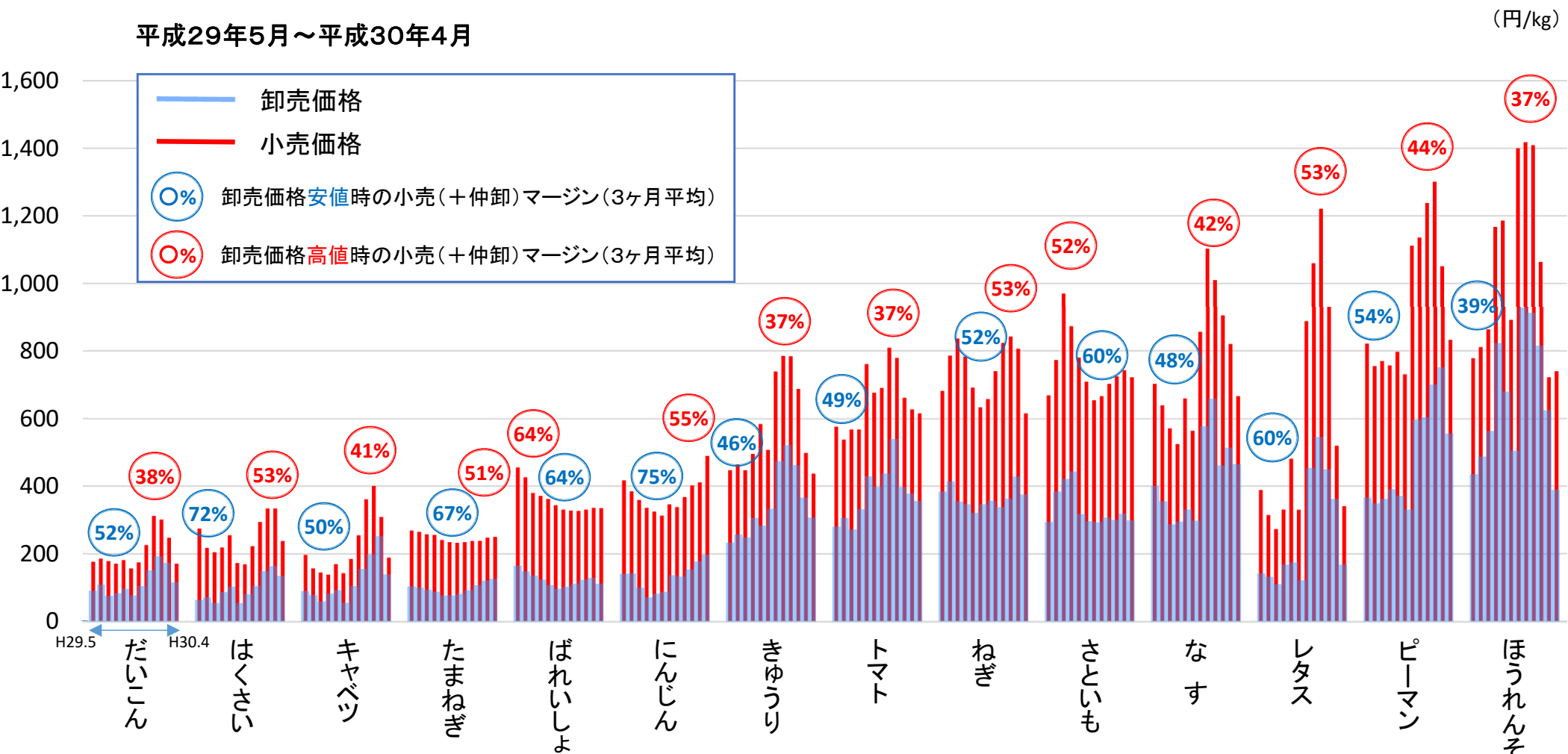


資料：農林水産省「食品流通段階別価格形成調査（平成26年度）」より作成

9 主要野菜の卸売価格と小売価格の推移

- 卸売価格と小売価格は、ほぼ連動して推移。
- 卸売価格低落時の小売（+仲卸）マージンは高く、高騰時は低い傾向。

◇月別小売価格と卸売価格の推移



資料：小売価格：総務省『小売物価統計』より作成。卸売価格：東京中央市場卸売会社協会のデータより作成。

10 主要野菜の加工・業務用契約取引の価格

- 国産加工・業務用野菜の契約取引における事業者の平均仕入価格は、同期間の平均市場卸売価格よりも低い傾向。ただし、手数料や運賃等を差し引いた生産者の実際の手取額では、必ずしも低くはない可能性。

◇加工・業務用野菜の仕入価格と卸売市場価格等との比較

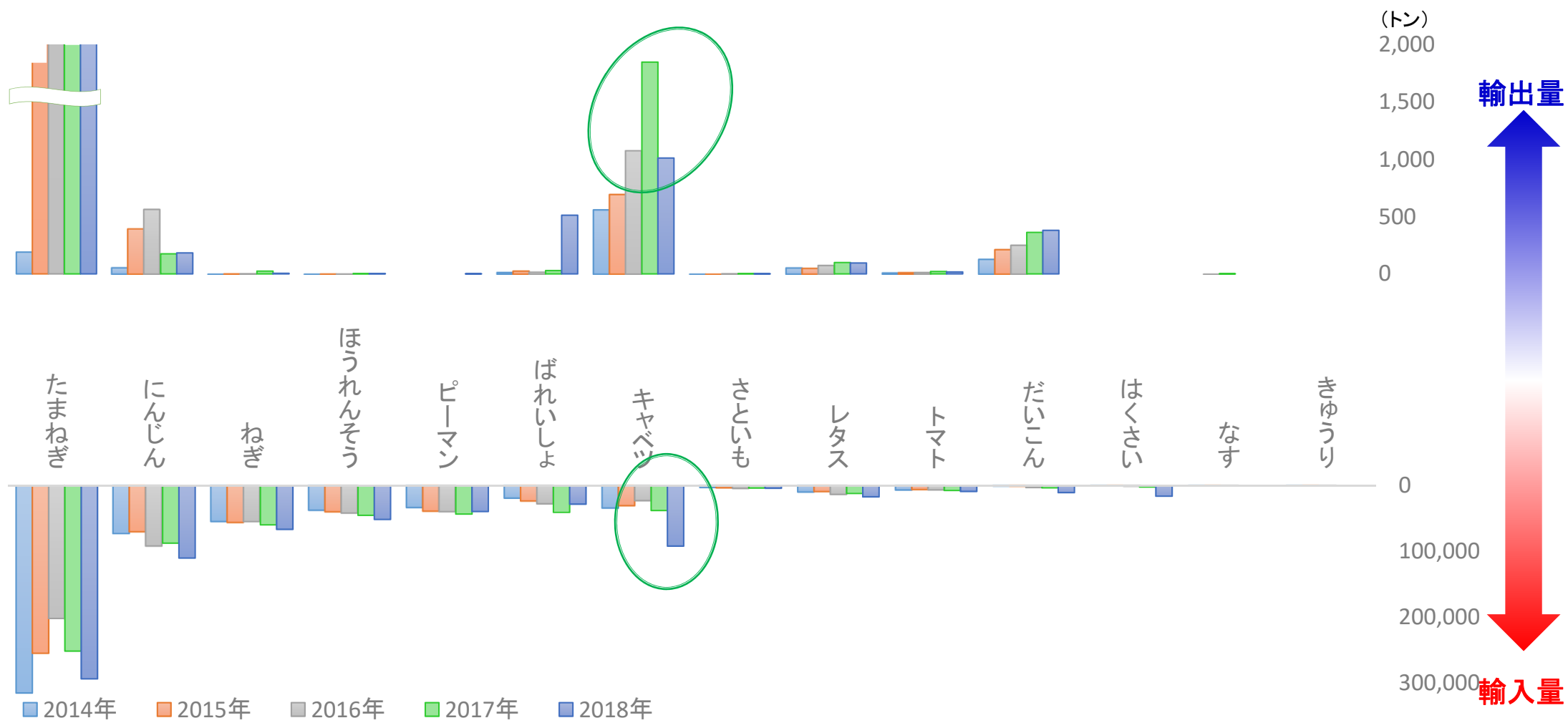
調査期間:平成24年11月～平成25年10月

(円/kg)

	キャベツ	はくさい	レタス	たまねぎ	きゅうり	なす	だいこん	にんじん	備考
調査期間の平均仕入価格	76	73	162	93	303	316	76	86	卸売市場の予約相対等に係る手数料や運賃は含まない 一次加工等のないホール取引のみを対象
調査期間の平均市場卸売価格	88	67	191	89	322	359	89	134	東京都中央卸売市場9市場における期間中の平均価格
市場卸売価格からの乖離度合	-14%	9%	-15%	4%	-6%	-12%	-15%	-36%	(平均仕入価格/平均市場卸売価格-1)×100(%)
(参考)卸売市場出荷時の 推定手取額	58	41	126	61	241	263	50	86	農林水産省「食品流通段階別価格形成調査(平成25年度)」による集出荷団体経費、卸売経費の割合を平均市場卸売価格に乗じて算出
(参考)卸売市場出荷時の 推定手取額からの乖離度合	30%	79%	28%	53%	26%	20%	51%	0%	契約取引の実際の手取額は、平均仕入価格から市場の手数料や運賃を差し引く必要がある場合があることに注意
(参考)輸入単価	36	38	105	39	273	245	165	47	直近5力年(H20～24年)の生鮮の輸入単価のうち5中3平均
(参考)推定生産原価(H19)	40	40	93	40	117	168	40	58	農林水産省「作況調査」及び「品目別経営統計調査」(平成19年産)

10 主要野菜の輸出入量の推移

- 輸出量はたまねぎが多いが、近年キャベツが増加傾向。
- 輸入量もたまねぎが多いが、全体的に緩やかな増加傾向。2018年は、天候不順等による国内産の不足の影響で輸入が増加。

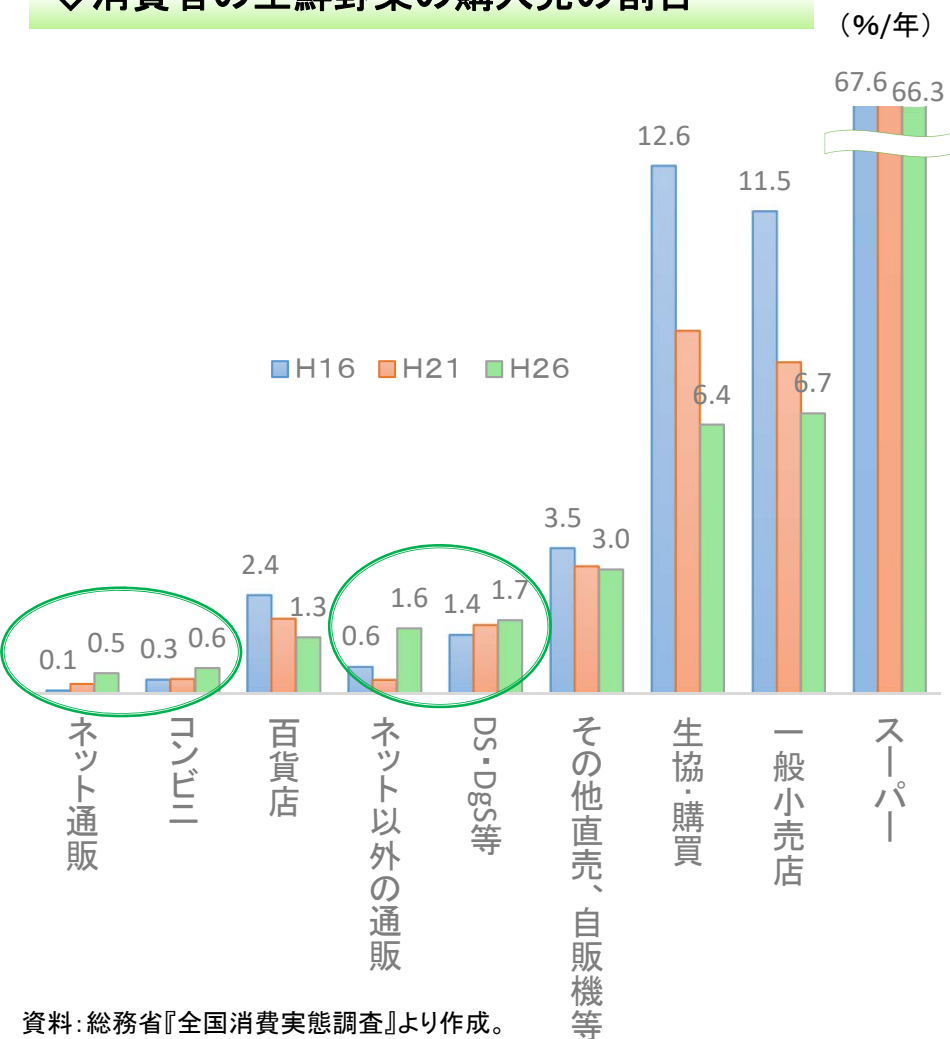


資料：財務省『貿易統計』より作成。

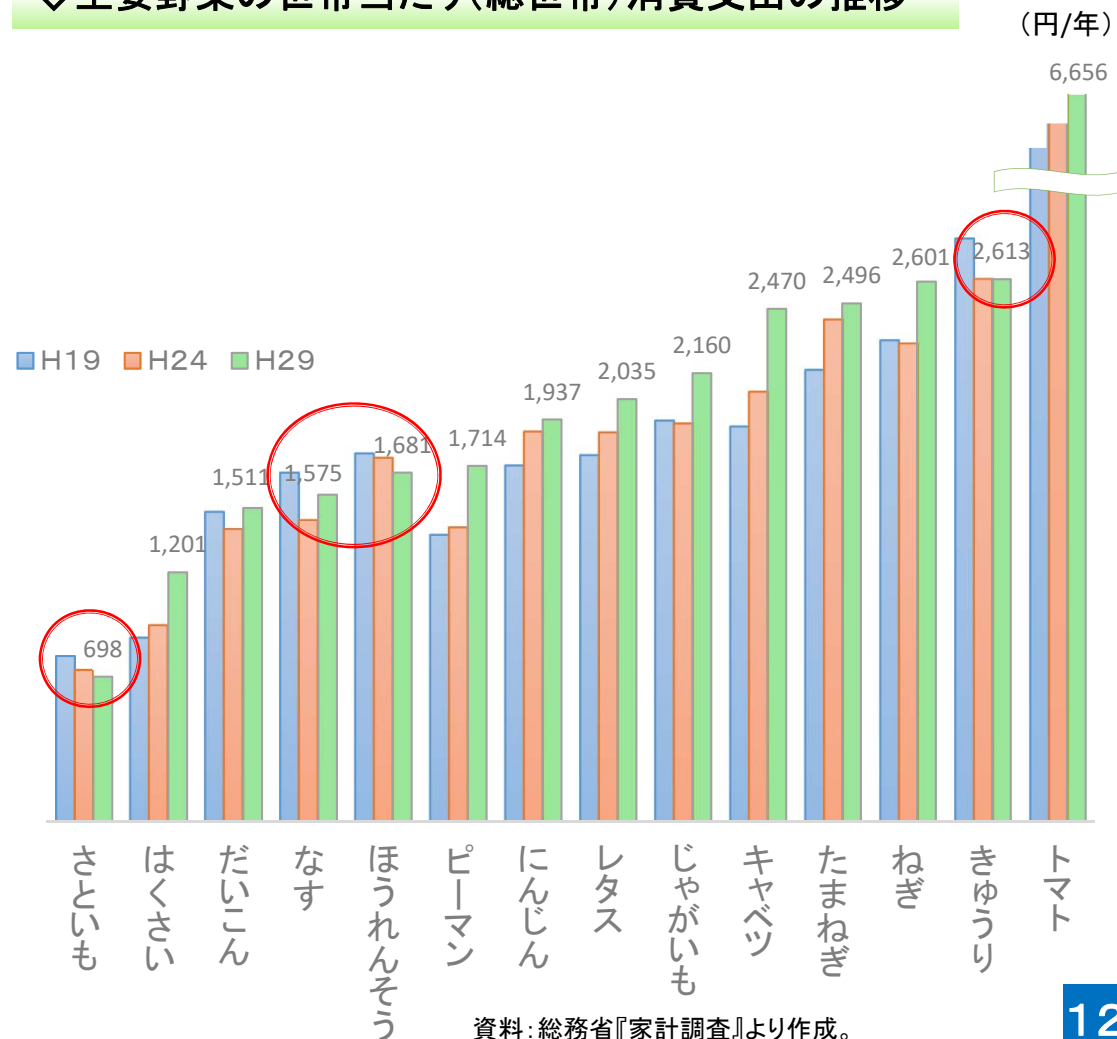
11 生鮮野菜の購入先、購入額の推移

- 生鮮野菜はスーパーで購入する消費者が大半。生協や一般小売店等からの購入が減少する一方、まだ割合は低いが、通販やコンビニ、ドラッグストア等からの購入が増加。
- 主要野菜の世帯当たり年間消費支出は、トマトが最も高く、多くの品目で伸びているが、さといも、なす、ほうれんそう、きゅうりで減少。

◇消費者の生鮮野菜の購入先の割合



◇主要野菜の世帯当たり(総世帯)消費支出の推移



資料:総務省『全国消費実態調査』より作成。

資料:総務省『家計調査』より作成。

(参考) 主要野菜の需給や価格動向に係る情報

➤ 主要野菜の生産・出荷や卸売・小売価格、今後の見通し等の情報を発信

名称/URL	内容
--------	----

野菜の需給・価格動向レポート(毎月)【農畜産業振興機構】
https://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html

- 品目別の卸売価格、市場入荷量、主産地
- 生育状況
- 一月先までの価格見通し
- 野菜の輸出入量・輸出入先

情報イメージ

野菜の需給・価格動向レポート(平成30年6月11日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

品名	5月の価格情報	5月の価格情報			5月下旬の卸売平均価格	6月の主産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し
		上旬	中旬	下旬			
キャベツ	08.59	54	59	59	67.20	千葉(38)、茨城(21)	→
		(81%)	(87%)	(87%)	+10.630t(109%)		
たまねぎ	01.02	63	58	67	81.66	茨城(36)、愛知(21)	→
		(93%)	(84%)	(74%)	+2.430t(96%)		
とうもろこし	05.93	85	83	77	85.93	佐賀(24)、兵庫(11)	→
		(92%)	(92%)	(90%)	+8.081t(122%)		
ピーマン	05.93	06	04	01	85.93	兵庫(49)、鳥取(18)	→
					+2.500t		

注：レポートの読み方については、添付資料を参照してください。

「国の見方」
 出荷量の増減率
 卸売価格の増減率
 平均価格(左側)は、レポート期間中に変動する場合があります。

平産率は、出荷調整を踏まえて、天候に恵まれて順調な生育であることから、引き続き平年を上回る出荷の見込み。茨城産は、トンネル栽培ものが天候に恵まれて順調な生育であることから、現在は平年を上回る出荷となっているものも、今後は露地栽培に切り替わることから、平年並みの出荷の見込み。
 平産率の出荷が平年を上回ると見込まれるもの、茨城産の出荷は平年並みになると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は平均に近づくもの、引き続き平均を下回って推移する見込み。
 佐賀産及び兵庫産は、順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
 佐賀産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるもの、流通在庫があることから現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。

野菜の小売価格動向調査(毎月)【農畜産業振興機構】
https://vegetan.alic.go.jp/kouuri_cyousa.html

- 指定野菜(さといも除く)の全国主要9都市の小売価格
- カット販売単位、最多産地、卸売価格

野菜の小売価格等の状況 平成30年5月分 (調査日 平成30年5月11日)

キャベツ

	札幌市	仙台市	東京23区	金沢市	名古屋市	大阪市	広島市	高松市	福岡市	全国
小売価格(円/kg)	185	138	120	221	139	178	149	142	141	157
最多販売単位	1個	1個	1個	1個	1個	1個	1個	1個	1個	-
1個販売の小売価格(円)	213	157	141	236	166	200	167	152	164	-

指定野菜の需要及び供給の見通し(5年に1回)【農林水産省】
http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/yasai_zyukyu/attach/pdf/index-38.pdf

- 指定野菜の長期的な需要量及び供給量の見通し

平成34年度指定野菜の需要及び供給の見通し (単位:千トン)

指定野菜の種類	項目	需要量(純食料ベース)	供給量	
			供給	国内産供給量
キャベツ	4月から6月まで	268~278	380~394	379~392
	7月から10月まで	333~352	473~498	460~486
	11月から翌年3月まで	444~483	630~684	614~669
きゅうり	7月から11月まで	234~257	256~282	247~273
	12月から翌年6月まで	267~291	293~319	279~305

指定野菜の需給ガイドライン(6月、12月)【農林水産省】
<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/engei/171222.html>

- 次期作の夏秋野菜、冬春野菜等の需要量、供給量、国内産供給量及び作付面積の見通し

3. 国内産供給量
 国内産供給量は、供給量をもとに輸入動向を勘案し、下表の程度と見込む。(単位:千t)

種別	国内産供給量(収穫量)
夏秋キャベツ	464,200
夏秋きゅうり	272,400